地域を守る！	▶普及啓発・人材育成	レジリエンス教育を行う

043 性的マイノリティの人たちの災害時対応ガイドの作成

取組主体		
任意団体岩手レインボー・ネットワーク		
従業員数	想定災害	実施地域
5 人	全般	岩手県

・「にじいろ防災ガイド」の作成を通じて、災害時における性的マイノリティの人たちの困りごとや支援ニーズを可視化。当該資料を各地の自治体や災害時支援団体、性的マイノリティ支援団体などに配布している。

1 取組の概要

2014 年 「にじいろ防災ガイド」の作成開始

にじいろ防災ガイド

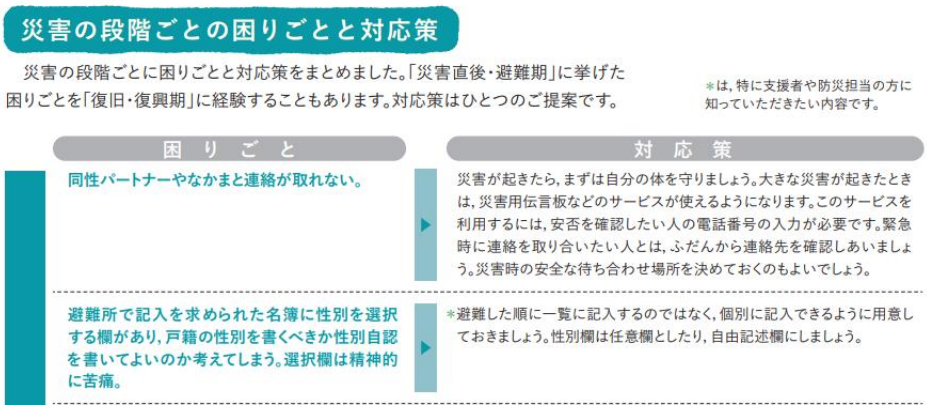
・岩手にゆかりのある性的マイノリティの人たちとサポーターのための団体である岩手レインボー・ネットワークは、「東日本大震災からの復興支援にかかるジェンダー平等をめざす藤枝澪子基金」による助成を活用し、2014 年に「にじいろ防災ガイド」を作成開始した。岩手・高知の両県で、性的マイノリティ当事者も含めたワークショップを開催し、性的マイノリティの視点で困りごと、対応策について議論を重ね、内容をとりまとめた。こうして完成した「にじいろ防災ガイド」を関連団体に配布した。

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

・「にじいろ防災ガイド」は、災害時に性的マイノリティの人たちが困りがちなことや対応策について、防災や災害時支援関係者のほか、性的マイノリティ当事者にも知ってもらい、災害への備えや実際の対応に役立ててもらうことを目的に作成したものである。

災害の段階ごとの困りごとと対応策の明記

・「発災直後・避難期」、「復旧・復興期」それぞれにおいて、困りごとと対応策を「にじいろ防災ガイド」の中に盛り込んだ。対応策については、性的マイノリティ当事者の対応策だけでなく、支援者や行政に期待される対応策も記述した。被災者は日本語話者だけではないとの考えから、片面は日本語、もう一方は英語で表記している。



災害の段階ごとの困りごとと対応策

災害の段階ごとに困りごとと対応策をまとめました。「災害直後・避難期」に挙げた困りごとを「復旧・復興期」に経験することもあります。対応策はひとつのご提案です。

＊は，特に支援者や防災担当の方に知っていただきたい内容です。

困りごと	対応策
同性パートナーやなかまと連絡が取れない。	災害が起きたら，まずは自分の体を守りましょう。大きな災害が起きたときは，災害用伝言板などのサービスが使えるようになります。このサービスを利用するには，安否を確認したい人の電話番号の入力が必要です。緊急時に連絡を取り合いたい人とは，ふだんから連絡先を確認しあいましょう。災害時の安全な待ち合わせ場所を決めておくのもよいでしょう。
避難所で記入を求められた名簿に性別を選択する欄があり，戸籍の性別を書くべきか性別自認を書いてよいのか考えてしまう。選択欄は精神的に苦痛。	＊避難した順に一覧に記入するのではなく，個別に記入できるように用意しておきましょう。性別欄は任意欄としたり，自由記述欄にしましょう。

「にじいろ防災ガイド」の内容（一部）

3 取組の効果

・自治体の地域防災計画や避難所運営マニュアルなどにおいて、性的マイノリティ配慮の記述が増えてきた。

4 取組への想い

東日本大震災後の性的マイノリティに関する問合せ増

・震災前から性的マイノリティに関する団体立ち上げを同志と話あっていたところ、東日本大震災が発生し、立ち上げるなら今しかないと、震災後 8 日で団体を立ち上げた。

・災害時の性的マイノリティの災害時の困りごとや支援ニーズについて震災後も問合わせを受けていたところ、2013 年

10 月に岩手県で開催された性的マイノリティ支援に関する全国大会にて、支援団体「高知ヘルプデスク」と縁ができ、岩手レインボー・ネットワークが東日本大震災から得た気づきを基に、共に資料を作成することになった。こうして作成されたのが、「にじいろ防災ガイド」である。

被災者に限らない性的マイノリティの声を反映

・性的マイノリティであるとカミングアウトして暮らす人たちは、いまだ多くない。岩手県内にある東日本大震災の被災地も同様の状況で、被災した性的マイノリティ当事者の声を聞くことが難しかった。そのような背景と、参加者の安全性や安心感の観点から、ワークショップについては、参加者の性のあり方や被災経験を問わない形式をとった。

・開催に際しても、性的マイノリティ被災者も参加したが、広く性的マイノリティの人たちの視点に立つことで、実際的な困りごとに限らず、潜在的な問題にも向き合い、検討を重ねていった。

ワークショップの様子

5 防災・減災以外の効果

性的マイノリティが抱える問題全般に関心を寄せる人たちの増加

・災害と性的マイノリティの人たちというテーマに触れた関係者が、それをきっかけに、性的マイノリティの人たちが平時に直面しがちな問題についても、関心や学びを広げる様子が見受けられた。

6 現状の課題・今後の展開等

・防災の取組を性的マイノリティの人たちの視点も踏まえたものとする必要があることは、東日本大震災以降、岩手レインボー・ネットワークを含めた様々な関係者の努力によって認識されるようになってきた。自治体の地域防災計画や避難所運営マニュアル等においても、性的マイノリティ被災者の存在を想定したものがみられるようになってきている。一方で、未だ計画・マニュアルに記載していない自治体があり、記載している自治体においても実際に配慮ある支援がなされているかについても、依然として課題が残る。

・今後さらに、防災の計画やマニュアルにおいて、性的マイノリティの人たちの視点が位置づけられる必要があり、より実際的な支援が行われるように、働きかけなければならない。

7 周囲の声

・「災害時の困りごとと対応策に関する表について、的確な内容がコンパクトにまとまっている優れた資料であり、防災講座参加者の理解が促進されるだろう」（防災士）

・「『にじいろ防災ガイド』について、素晴らしい取組と評価されるとともに、危機管理室や関係セクションにおいて、今後の避難所運営などの参考にしている」（自治体職員）

・「『にじいろ防災ガイド』を参考にしている。また、同ガイドを紹介することで、さらに取組が広がればうれしい。」（防災関係部署の自治体職員）

・「『困りごと』一覧を見て、自分では全く想像できていなかったと、多くの気づきがあった」（メディア関係者）

担当者の声

・性的マイノリティの人たちは、その存在が見えるか否かに関わらず、どの地域でも、平時にも災害時にも、この社会で共に暮らしています。「にじいろ防災ガイド」には改善点もありますが、将来またどこかで災害が起きたときに、性的マイノリティの人たちも尊厳を持って生き延びられるよう、防災や災害支援に取り組む様々な関係者の方に、広く活用していただきたいと願っています。

問合せ先	動画	サイト URL
岩手レインボー・ネットワーク Email：iwaterainbownetwork@gmail.com URL：https://www.facebook.com/iwaterainbownetwork/	―	